

資料編

1 略年表

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
縄文早期		- 上ノ山貝塚	
縄文前期		- 鈴ノ木貝塚・光正寺貝塚	
縄文後期		- 雷矢切貝塚・清水寺貝塚	
弥生後期		- 西大高畑住居遺跡・前之輪遺跡	
300		- 兜山古墳・赤塚古墳・大塚古墳	
500		- 三ツ屋古墳	
686	朱鳥 元	- 成海神社創建	
700	文武 4	- 猫塚廃寺遺跡	
710	和銅 3	- この頃 奈良朝須恵器（通曲窯・神の倉窯・乗鞍窯・鶴ヶ沢窯ほか）で須恵器焼く	- 平城遷都
743	天平 15	- 正倉院の文書『智識優婆塞虞貢進文』に「尾張国愛智郡成海郷戸主少初位上」と記載	- 壱田永年私財法発布
746	天平 18	- 東大寺蔵の文書に「荒田井直牛養年二七右人尾張国愛知郡成海郷戸主荒田井直益磨戸口」と成海（なるみ）記載	
759	天平宝字 3	- 万葉集高市連黒人或蔵人の歌に「さくらだへたづなき渡るあゆち瀉塩干にけらしたづなきわたる」と鳴海瀉登場	
794	延暦 13	- この頃 平安朝瓷器窯（亀ヶ洞窯・黒石窯・熊ノ前窯ほか）で須恵器や灰釉陶器など焼く	- 平安遷都
1282	弘安 5	- 草堂（如意寺）を無住国師が作町に移す	
1382	永徳 2	- 大火で神社や民家に被害が大きく火高の呼び名を大高に改める	
1396	応永 3	- 安原宗範が成海神社を乙子山に遷座して鳴海城（根古屋城）築く▽瑞松寺（瑞泉寺）創建	
1408	応永 15	- 南蛮国より贈られた象が東海道通行で黒末川（扇川）を渡り中島土橋が危険となる	
1501	文亀 元	- 瑞松寺が諏訪山から相原町に移り寺号を瑞祥寺と改め	
1513	永正 10	- 平部山より人々が引越し平部町できる	
1515	永正 12	- 愛知郡と知多郡今川氏の領有となる	
1532	天文 元	- 水野蔵人貞守の勢力大いに振るい弟為善を大高城主とする	
1535	天文 4	- 赤塚より人々が引越し根古屋町できる▽織田信秀が鳴海城を修復させ山口左馬助を配置する	
1538	天文 7	- 長福寺を善空南立上人開く	
1549	天文 18	- 織田と今川に一時講和成立	- 今川義元星崎城築城
1551	天文 20	- 織田信秀没し信長家督継ぐ	
1552	天文 21	- 山口左馬助が信長に背き今川に付く▽赤塚で信長と左馬助の子九郎二郎が戦うが勝敗決まらず	

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1556	弘治 2	- 春江院を大高城主水野大善亮が創建▽剛庵洞金が清水寺を光明寺と改め再興▽信長が成海神社と八幡宮に朱印状	
1559	永禄 2	- 信長が丹下・善照寺・中島・鷺津・丸根に砦を築き今川軍勢に対抗	
1560	永禄 3	5 桶狭間の戦い織田信長が今川義元破る▽丸根砦攻防で鉄砲使われる	
1567	永禄 10	- 里村紹巴『富士見道記』に熱田から大高へ舟で渡る情景を紹介	
1573	天正 元	- 明忠院と誓願寺創建	
1574	天正 2	- 源光院（海岸寺）創建	
1575	天正 3	- 信長東海道の幅広げ植樹	- 長篠の戦い
1582	天正 10	- 長翁寺創建	- 織田信雄尾張国の領主となる
1589	天正 17	- 相原町へ宿地より人家が移転 この頃 鎌倉街道を古海道と呼ぶようになる	
1590	天正 18	- 根古屋城（鳴海城）廃城	- 豊臣秀吉全国統一▽豊臣秀次近江八幡から移り尾張の領主となる
1596	慶長 元	この頃 佐久間甚九郎鳴海城跡を訪ね詩を詠む	- 福島正則清須に封ぜられて尾張にて24万石を領す
1597	慶長 2	- 桑名より下里次郎大夫信種が鳴海に移住 この頃 本陣の西尾四朗左エ門が美濃から鳴海に移住	
1601	慶長 6	- 徳川家康が東海道伝馬制を制定し鳴海宿が東海道五十三次の宿場となる	
1604	慶長 9	- 有松（鳴海）に一里塚築かれる	- 出雲阿国清須にて「かぶき踊り」を興行
1607	慶長 12	- 朝鮮使節「回答兼刷還使」派遣始まり鳴海で昼食休息	- 徳川義直尾張に封ぜられる
1608	慶長 13	10 桶狭間村と大高村の検地実施 - 尾張藩布告で有松へ移住を奨励▽鳴海から相原・平手新田が分村	
1609	慶長 14	- オランダ人参府始まり鳴海宿通る	
1610	慶長 15	- 竹田庄九郎武則紋考案	- 名古屋城築城
1614	慶長 19	- 古寅新田開発	10 大阪冬の陣
1615	元和 元	- 鳴海宿本陣建設し浅岡吉右衛門が経営	5 大坂夏の陣
1616	元和 2	- 志水甲斐守（義直の生母の実家）大高に邸を構える	
1624	寛永 元	- 古川子新田開発	
1625	寛永 2	- 竹田庄九郎段紋を考案▽尾張藩さらに有松の屋敷地無税に移住奨励	
1626	寛永 3	- 後寅新田開発	
1629	寛永 6	- 己新田開発	
1632	寛永 9	- 宇治から将軍に茶献上のため「茶壺道中」始まり鳴海宿で泊まる	
1634	寛永 11	- 新海池を新海五平治築く	

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1641	寛永 18	- 尾張藩嫡子徳川光友へ絞染手綱を献上	
1644	正保 元	この頃 竹田備中守の侍医三浦玄忠の妻が豊後絞を村民に伝授	
1649	慶安 2	丸の内新田検地	
1651	慶安 4	- 平手神明社建立	
1656	明暦 2	- 大火で鳴海の宿場全焼	
1658	明暦 4	- 三浦玄忠の妻「貴窓永尊禅定尼」没する	
1660	万治 3	- 紅染絞・紫染絞が考案されて有松絞の需要増加	
1661	寛文 元	この頃 桶狭間神明社の祭り始まる	- 尾張藩切支丹奉行創設
1662	寛文 2	- 竹田庄九郎武則没する	- キリシタン取締のため五人組制定
1666	寛文 6	- 東昌寺創建	9 尾張藩判書（藩札）発行
1667	寛文 7	- 清水忠時が菩提寺として長祐寺（長寿寺）再建	
1671	寛文 11	- 琉球使節鳴海宿通る	- 『寛文村々覚書』の編纂すむ
1680	延宝 8	- 込高新田開発（用水池として蛇池・砂走池）この頃 大名絞・杓目絞・蜘蛛段絞など新製品が発明されて絞業が急速に発達	
1681	天和 元	- 尾張藩主が綱吉に将軍就任祝いで「九九利絞」の手綱を献上	
1682	天和 2	8 琉球使節と朝鮮通信使鳴海宿で昼食休息	
1684	貞享 元	- 大高村新田検地実施	- 芭蕉七部集「冬の日」を成し遂げる
1685	貞享 2	- 松尾芭蕉初めて鳴海の知足を訪れ業言・安信・如風・重辰・自笑らと句会開く	
1686	貞享 3	- 幕府が氷上姉子神社修復	
1687	貞享 4	- 芭蕉「星崎の闇を見よとや啼く千鳥」発句の句会記念に千鳥塚建てる	
1689	元禄 2	- 元禄時代を迎え有松絞の全盛期となる	
1697	元禄 10	- 二代目竹田庄九郎死去	- 酒株の制が敷かれる
1716	享保 元	7 成海神社（東宮）の祭礼に横町より獅子舞出る	- 徳川吉宗享保の改革をおこなう
		- 大高村の申新田開発▽尾張藩主が知多を巡見	
1729	享保 14	- 明忠院が中屋敷から鷺津に移転この頃 有松村に絞染改会所を設置し官印押し冥加を徴収	
1732	享保 17	3 尾張藩主宗春初の名古屋入府で本陣泊に鳴海の祭りを披露して歓迎	
1752	宝暦 2	5 細根山天満宮創建	- 松平君山ら『張州府志』完成
1753	宝暦 3	- 桶狭間村神明社大増築	
1755	宝暦 5	2 鳴海宿大火で本陣・脇本陣・問屋場など200軒焼失	
		- 祇園寺建立	
1767	明和 4	7 天白川氾濫で大高と鳴海に洪水発生し込高で死者5人	

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1781	天明 元	9 天白川と扇川の分流堤新設で人見彌右衛門に藩主大判1枚など贈る	
1782	天明 2	- 鳴海陣屋設置鳴海代官置く▽染絞職分取締につき触書▽有松絞業者が営業独占権獲得(14人)	
1783	天明 3	願主相原村庄屋で諏訪社屋根葺き替え	- 天明の大飢饉
1784	天明 4	- 有松村大火災全村焼失	
1787	天明 7	4 鳴海庄屋藩役所に街道枯松伐採願い	- 松平定信寛政の改革をおこなう
1792	寛政 4	- 鳴海宿西入口丹下に常夜灯建つ	
1798	寛政 10	- 天満社祇園寺境内から文章嶺に遷座	- 本居宣長『古事記伝』完成
1803	享和 3	- 伊能忠敬ら鳴海同心同道で大高測量	
1804	文化 元	- 有松絞統制強化	
1810	文化 7	- 天満社大改築	
1811	文化 8	2 鳴海宿扇屋から出火し本陣・脇本陣ほか問屋場など170軒焼失 - 有松絞統制違反紛争で尾張藩が阿波松平家を訴え	
1822	文政 5	- 旅行ガイドブック『懷宝道中図鑑』に「有松もめんなるみしほり名物也」と紹介	- 樋口好古『尾張徇行記』編纂完了
1824	文政 7	6 新四国88番札所の開眼で長寿寺87番札所となる - ペルシヤからのラクダ通る	
1826	文政 9	- シーボルトオランダ人参府に随行し通る	
1829	文政 12	3 鳴海村の助蔵が金毘羅社参詣途中の讃岐で発症し親戚 人が無事連れ帰る	
1830	天保 元	- 春江院本堂と山門再建	
1831	天保 2	- 氷上姉子神社「太々神楽」始まる	
1832	天保 3	11 琉球王使随行の楽師没し「琉球国来応院即心是空居士」名で瑞泉寺に葬る	
1834	天保 5	- 有松絞株仲間組織の強化	
1841	天保 12	この頃 有松村の絞商19軒ほか茶屋・雑貨屋など20軒街道に並ぶ	- 水野忠邦天保の改革をおこなう
1842	天保 13	- 天保の改革儉約令で有松絞衰微する	
1843	天保 14	2 鳴海周辺の御林山で大規模な盗木発覚し村民20人捕捉	
1844	弘化 元	- 酒造人鳴海村(下郷四朗兵衛・下郷善右衛門・寺嶋嘉兵衛・服部卯八郎・小島長右衛門)大高村(久野九平治・山口孫六・久野藤助・藤右衛門・三左衛門・友市・庄右衛門)有松村(宗兵衛)	- 『尾張名所図会』刊
1847	弘化 4	5 茶壺道中鳴海宿本陣で宿泊 - 大高村で大雨により倒壊4戸の被害出る	- 『尾張志』完成
1848	嘉永 元	2 鳴海宿旅籠屋1軒に1人の飯盛女とする 7 村役人鳴海陣屋に「鹿出没でおどし鉄砲」許可願い	
1853	嘉永 6	- 鈴木金蔵養老影絞を発明	- アメリカ東インド艦隊(司令官ペリー)来航

西暦	年号		緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1855	安政	2	12 定次郎鳴海宿で暴れ死者4人負傷20人出る「信高騒動」と呼ぶ	
1856	安政	3	- 軍費調達として藩より鳴海村始め14か村に献金として2万7600両が課せられる	
1859	安政	6	9 サンコロリ（コレラ）流行に成海神社で7日間疾病退散祈願	
1861	文久	元	10 皇女和宮の婚礼道具鳴海宿通る	
1863	文久	3	2 徳川将軍家茂が上洛の途竹田庄九郎家と本陣で休息する	
			- 志水忠平藩命により大高に移住	
1865	慶応	元	5 長州征伐の途路将軍家茂竹田家で休息する	
			- 春江院鐘楼再建	
1867	慶応	3	- 名古屋下園町の住人有松紋に学んで新たに紋を創案し尾張藩これに国産紋と名づけ諸国に販売する	10 大政奉還
1868	明治	元	- 有松紋特権の消滅	9 明治と改元
			- 鳴海陣屋廃止で鳴海・大高・有松・桶狭間は名古屋藩南方総管所（知多郡横須賀村）に編入される	
1869	明治	2	3 明治天皇東幸で本陣で休息	6 尾張藩を名古屋藩（大曾根以北は犬山藩）と改称
1870	明治	3	8 問屋場が鳴海伝馬所となる	
1871	明治	4	3 諏訪社本殿葺き替え	7 廃藩置県により名古屋藩を廃し名古屋県を置く
			11 愛知郡は名古屋県第二大区・知多郡は額田県第一大区となる	11 犬山県を名古屋県に合併
				12 名古屋県に屯所10カ所を置く
1872	明治	5	4 名古屋県を愛知県と改称	7 全国に郵便開設
			11 額田県を愛知県に合併	8 学制発布
			11 鳴海村・相原村・平手新田は愛知県第二大区十小区に大高村・込高新田は愛知県第七大区二小区に有松村・桶狭間村は愛知県第七大区一小区にそれぞれ編入される	9 名古屋電信局設置
			- 本陣・脇本陣の特権廃止	
1873	明治	6	4 鳴海四等郵便役所を鳴海村問屋場跡に設置し大高・有松も集配する	12 郵便はがき発行
			9 平手新田村方会所を校舎に幼導学校創立	
			10 萬福寺の本堂校舎に広道学校が教員5人で創立	
			11 高見に明道舎創立	
			- 込高新田に清風学校創立	
			この頃 下村哉明鷺津山に庵（西行庵）結ぶ	
1874	明治	7	7 有松橋東南に有明学校創立	
1875	明治	8	6 広道学校下郷次郎八郎に移る	1 郵便役所が郵便局と改称
			- 有松天保時代製作の山車「唐子車」購入	

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1876	明治 9	2 鳴海村相原村・平手新田を合併 5 広道学校を成海学校と改称 8 大・小区制廃止に伴い愛知郡は第二区に 知多郡は第七・八区に二分される（大高 ・有松は第七区に編入） 12 鳴海村に巡查屯所設置 － 有明学校を有松学校に明道舎を大高学校 と改称する	5 郵便貯金開始
1877	明治 10	2 鳴海村巡查屯所を名古屋警察署平針分署 鳴海巡查交番所と改める 7 鳴海巡查交番所は名古屋警察署鳴海分署 に昇格	2 西南の役おこる 10 黒川（堀川上流）開削完成
1878	明治 11	12 込高新田大高村に合併▽区制で（愛知郡 鳴海村・知多郡大高村・有松村・桶狭間 村郡区）置かれる▽愛知県第一区を名古 屋区に改め区長に吉田禄在就任 この頃 大高村で公設消防組を創設	7 府県会規則・郡区町村編成 法公布
1879	明治 12	9 春江院の書院が有松から移築される 11 名古屋警察署鳴海分署は熱田警察署鳴海 分署となり鳴海・大高・有松を管轄し桶 狭間は半田警察署の管轄となる － 有松村村会成立▽桶狭間村共和村へ合併 ▽大高村竜吐水・火の見梯子・半鐘新調	5 愛知県会議員第1回選挙執 行 9 学区制を廃し、教育令を公 布
1880	明治 13	4 有松五等郵便役所設置▽鳴海村・大高村 村会成立 － 浅間堂橋・天白橋架け替え▽大高畑津島 社入口に「南部農車道開墾碑」建つ▽大 高城跡に茶席若葉亭開く	4 区町村会法制定 7 初めて名古屋区会議員選挙 執行
1881	明治 14	－ 桶狭間村共和村から分村	6 飯田街道起工
1882	明治 15	－ 戦国時代から使われた知多街道黒末の渡 し廃止	5 愛知県会議事堂完成
1884	明治 17	6 愛知薬学校(のちの名古屋薬学専門学校) 創立	
1885	明治 18	12 豊藤稲荷神社火災で社殿焼失	12 内閣制度創設（伊藤博文が 初代内閣総理大臣に就任）
1886	明治 19	3 国鉄武豊線開通大高駅設置 4 大高小学校込高分校を併合し尋常小学大 高学校と改める 5 鳴海四等郵便役所を鳴海三等郵便局と改 称▽知多の酒造家で知多郡豊穰組合設立 大高8人が会員	4 小学校令公布▽教科書文部 省検定制度となる 10 名古屋に測候所設置
1887	明治 20	4 成海学校3分教場を土井新三郎邸（脇本 陣）に移し鳴海学校▽有松学校が尋常小 学有松学校となる 6 熱田警察署鳴海分署大高巡查駐在所を高 見に設置	2 通信省徽章を「〒」字形に 定める 6 郵便局と電信局合併名古屋 郵便電信局となる
1888	明治 21	7 長寿寺の本堂等焼失 － 桶狭間村が再び共和村と合併	3 天気予報開始 11 国歌「君が代」制定

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1889	明治 22	1 氷上姉子神社の本殿と拝殿焼失 9 台風で大高西と込高新田で死者7人 10 鳴海町制施行	2 大日本帝国憲法発布 10 名古屋区に市制施行、名古屋市となる
1890	明治 23	3 大高他知多14町村で聯合農会設置 12 大高山口平之助漢学浴用拙私塾身楽	3 市役所開庁式挙行
1891	明治 24	10 濃尾地震で鳴海・大高・有松に全壊家屋他井戸水増水しあふれる▽有松が延宝5年製作の名古屋玉屋町山車布袋車購入	10 濃尾大地震おこる
1892	明治 25	9 有松町制施行▽鳴海尋常小学校校舎矢切に完成 - 私立小学校が桶狭間に開校▽桶狭間に青年会が夜学開く	
1893	明治 26	11 有松町と共和村大字桶狭間との合併 - 氷上姉子神社本殿遷宮▽常滑から下田生素招き鳴海焼始まる	
1894	明治 27	3 尋常小学有松学校に高等科併置 9 大高町制施行	8 日清戦争おこる
1895	明治 28	1 大高八幡神社(町屋川)本殿新築 2 大高郵便受取所江明に設置 - 鈴木金蔵が絞「日本錦」と「日本桜(嵐絞)」を考案	4 日清講和条約調印 9 名古屋市立消毒所設置
1896	明治 29	7 有松郵便受取所設置 8 氷上姉子付属地村人発掘するも現状に戻す	9 豪雨で庄内川決壊(溺死者約1,000人)
1897	明治 30	3 大高銀行(資本金10万)設立許可される - 鈴木金蔵の記功碑建立▽桶狭間御領地開墾開始▽国鉄大高駅に公衆電報取扱い所設置	
1898	明治 31	10 長寿寺本堂・弘法堂・観音堂再建 この頃 相原智明神堂建つ	5 名古屋電気鉄道株式会社市内線(市電の前身)笹島～栄町間で開通 10 市内電話の通話開始
1899	明治 32	11 大高郵便受取所を大高三等郵便局と改称郵便小包業務開始 12 有松絞商工業組合認可 この頃 大高でトマト初めて栽培	
1900	明治 33	2 有松郵便受取所を有松三等郵便局と改称 5 皇太子ご成婚御奉祝「纈纈絞」2反献上 10 鳴海三等郵便局が三等郵便電信局と改称電信業務開始 - パリの万国博到有松の綿布絞を出品受賞	7 名古屋と大阪・東京との長距離電話開通▽中央線が名古屋一多治見間で開通 12 市内の各郵便局で初めて年賀郵便特別扱いを開始
1901	明治 34	4 桶狭間青年学友会組織し夜学会開く 6 尋常小学大高等学校に高等科併設授業料1ヵ月30銭 - 鳴海絞組合広産社を鳴海絞同業組合と改称	
1902	明治 35	4 尋常小学鳴海学校に高等科併設	1 日英同盟条約調印
1903	明治 36	5 鳴海町役場完成▽尋常小学大高等学校町屋川六番に移転	4 小学校令改正国定教科書新制度を採用▽名古屋郵便電

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1904	明治 37	12 鳴海三等郵便局が鳴海郵便局となる - 尋常小学大高等学校町屋川に移転し旧校舎を大高町役場とする▽鳴海・有松・桶狭間から神宮西門に乗合馬車走る - 不景気により絞関係の職工が大量解雇される この頃 大高駅前から名和を經由し横須賀に乗合馬車走る	信局名古屋電話交換局と合併し名古屋郵便局となる 2 日露戦争おこる
1905	明治 38	2 有松絞商工同業組合設立 4 有松三等郵便局が有松郵便局となる	9 日露講和条約調印
1906	明治 39	7 有松郵便局電信事務開始	11 名古屋瓦斯株式会社創立
1907	明治 40	10 有松町立商業補習学校設立	10 名古屋市の徽章を⊙と制定
1908	明治 41	4 有松巡査駐在所設置 - 桶狭間武路外七字の御料地拝借総代が開墾地図作成	4 名古屋市4区制施行(東・西・中・南)
1909	明治 42	2 鳴海・大高・有松各郵便局に電話開通 3 大高郵便局集配業務開始 12 熱田警察署鳴海分署は熱田警察署鳴海巡査部長派出所と改められる	10 名古屋市役所新栄町(現在の中区役所)に移転 11 鶴舞公園開園
1910	明治 43	9 有松郵便局電話交換事務開始	4 名古屋開府三百年記念祭開催
1911	明治 44	3 大高郵便局北鶴田に移転	10 瀬戸電気鉄道の堀川～土居下間が開通
1912	明治 45	7 鳴海郵便局電話交換事務開始	2 し尿汲取りの市営実施
1912	大正 元	9 大高銀行西加茂郡小原村に移転 - 大高・鳴海・有松に電燈がつく	7 明治天皇崩御、大正と改元
1913	大正 2	2 愛知電気鉄道有松町～熱田東町間と鳴海町～知多郡上野村間の鉄道敷設免許許可 - 桶狭間青年親睦会第1回敬老会開く	5 堀川の納屋橋改築竣工 8 東海道線天竜川橋梁複線で全線複線開通
1914	大正 3	7 大高郵便局電話交換事務開始 - 電話加入者数大高13台・有松22台・鳴海10台	7 第一次世界大戦おこる 9 名古屋市が上水道の給水を開始
1915	大正 4	3 鳴海尋常小学校校庭に忠魂碑と戦没者芳名の碑建てられる 8 大高八幡社の拝殿改築される - 鳴海町の名士御大典記念祝賀会を細根山で開く	6 市営八事火葬場使用開始 - 愛知電鉄神宮前～笠寺間軌条布設
1916	大正 5	- 郡道鳴海～多治見線工事で鳴海城跡から古瓦見つかる	
1917	大正 6	5 愛知電鉄神宮前～有松裏間開通し鳴海駅と有松駅開業する - 鳴海小作争議おこる	
1918	大正 7	8 鳴海で米騒動おこる 11 有松町立実業補習学校設立	4 鶴舞公園付属動物園開園
1919	大正 8	4 大高町立実業補習学校設立 5 熱田警察署鳴海巡査部長派出所は熱田警察署鳴海警部補派出所となる - 鳴海に電燈が普及する	4 都市計画法公布 10 市制30周年記念祝典開催

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1920	大正 9	4 大高郵便局電信事務開始 10 第1回国勢調査施行鳴海町8,089人・大高町3,951人・有松町2,140人 10 鳴海耕地整理組合設立認可 - 郡道鳴海～挙母線開通▽大高小学校の就学率100%で県から表彰受ける この頃 扇川からの伊勢参拝船廃止となる	5 労働祭、東京上野公園で開催(我が国最初のメーデー) 10 第1回国勢調査施行名古屋市：42万9,997人▽新出来町に市営住宅創設
1921	大正 10	5 大高消防組組織される 7 名古屋区裁判所松出張所が往還北に設置される - 愛知で最初社会福祉施設「子供の家」服部賢準により設立される	8 隣接16カ町村を名古屋市域に編入
1922	大正 11	3 鳴海小作争議指導の雉本朗造博士瀬戸内海で行方不明となる - 向田に鳴海絞組合事務所開く▽東京で開かれた万国博覧会に有松絞出品	4 本市の尋常小学校授業料廃止▽健康保険法公布 8 市内電車が市営となる(電車賃5銭)
1923	大正 12	3 鳴海小作争議が和解する 4 愛知電鉄有松裏駅～新知立駅間が単線で開業 8 愛知電鉄神宮前駅～東岡崎駅間開通	9 関東大震災おこる 10 鶴舞公園内に市立名古屋図書館開館
1924	大正 13	- 県道鳴海～大浜線開通	4 初めて市内全区(東・西・中・南)に土木管区事務所設置
1925	大正 14	1 氷上姉子神社庁屋再興 4 半田警察署大府巡查部長派出所が大府・大高・有松を管轄する 10 第2回国勢調査施行鳴海町8,666人・大高町4,249人・有松町2,131人	4 治安維持法公布 5 衆議院議員選挙法改正公布(男子普通選挙実現) 10 第2回国勢調査施行名古屋市：76万8,558人
1926	大正 15	7 大高と有松に青年訓練所新設される	7 郡役所廃止
1927	昭和 2	- 鳴海球場完成	6 市電料金初めての値上げで6銭となる
1928	昭和 3	12 熱田駅前～有松裏駅前間にバス営業開始 この頃 「なるみ荘」の住宅地分譲	11 ラジオの全国中継放送開始
1929	昭和 4	- 大高町に方面事業助成会設置 - NHK桶狭間放送所放送開始	3 市で最初の電気信号機を市電鶴舞公園前交差点に設置 10 世界恐慌はじまる
1930	昭和 5	3 赤塚古墳発掘で人骨・金環・直刀など出土 10 第3回国勢調査施行鳴海町10,163人・大高町4,832人・有松町2,275人 - 青山衝天中央有鄰学院創立	2 市営バス浄心～覚王山・浄心～鶴舞公園・名古屋駅前～大曾根・名古屋駅前～内田橋間で開通 10 第3回国勢調査施行名古屋市：90万7,404人▽名古屋市公会堂竣工
1931	昭和 6	4 名古屋通信局通信講習所中区から薬師山に移る▽名鉄桶狭間駅開業 5 新有松球場で開場記念3中等学校リーグ戦開かれる 11 鳴海球場で日米野球開かれ米大リーグ選抜とオール慶応が対戦	2 名古屋城一般に公開 9 満州事変おこる

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1932	昭和 7	<ul style="list-style-type: none"> - 鳴海町に愛知高等薬学校開校 - 有松郵便局集配業務開始▽鳴海町初の鉄筋コンクリートで鳴海小学校の講堂建てられる▽有松絞改善同盟会設立▽鳴海絞商業組合設立 	5 5・15事件おこる
1933	昭和 8	<ul style="list-style-type: none"> - 御大典記念で氷上姉子神社拝殿改築・お田植えまつり始まる▽桶狭間史蹟保存会でき機関紙『桶峽』創刊▽有松絞開祖竹田庄九郎之碑建立 	3 国際連盟脱退
1934	昭和 9	<ul style="list-style-type: none"> 3 万福寺に司法少年保護所「女子那爛陀苑」開く 10 鳴海絞開祖三浦之の碑建立 11 鳴海球場でベアブルースら全米チームと全日本が対戦 12 名鉄桶狭間駅廃止 	9 室戸台風来襲
1935	昭和 10	<ul style="list-style-type: none"> 4 大日本紡績株式会社大高工場起工 8 有松町に突風と拳大の雹降り農作物に被害出る 10 第4回国勢調査施行鳴海町11,865人・大高町5,451人・有松町2,407人 - 有松町と鳴海町（大将ヶ根・境松・有松裏・米塚）の合併問題起きる 	<ul style="list-style-type: none"> 4 東山公園開園 5 熱田下水処理場完成 10 第4回国勢調査施行名古屋市：108万2,816人 11 徳川美術館開館
1936	昭和 11	<ul style="list-style-type: none"> 2 鳴海球場でプロ野球の初試合巨人対金鯱観客2万5,000人指定席1円50銭 4 愛知高等薬学校が名古屋薬学専門学校となる 12 名古屋製陶鳴海工場誘致 - 鳴海・大高・有松町立青年学校を小学校に併置 	2 2・26事件おこる
1937	昭和 12	<ul style="list-style-type: none"> 4 鳴海荘で住宅展覧会開く - 鳴海球場内野スタンド両翼に3千人収容の「伊吹スタンド」完成▽県道古鳴海停車場線開通 	<ul style="list-style-type: none"> 3 名古屋汎太平洋平和博覧会開催 7 日中戦争おこる 10 10区制施行（千種・東・西・中村・中・昭和・熱田・中川・港・南）
1938	昭和 13	<ul style="list-style-type: none"> 1 日本車輛工場誘致 2 有松絞工業組合設立 6 鳴海歌の会「拾玉会」が記念の歌塚碑建てる 12 大高城跡（府丸根砦跡・鷺津砦跡）国の文化財に指定 - 大高町と有松町が横須賀警察署の管轄となる▽汐田・向田埋め立て開始 	<ul style="list-style-type: none"> 3 中区南外堀町に愛知県新庁舎竣工 4 国家総動員法公布
1939	昭和 14	<ul style="list-style-type: none"> 3 郷土研究の「鳴海土風会」発足し『奈留美』創刊 9 中央発條工場誘致 	<ul style="list-style-type: none"> 4 官位名古屋帝国大学開設 7 国民徴用令施行
1940	昭和 15	<ul style="list-style-type: none"> 4 中央発条へガス供給で鳴海町がガス供給区域となる 	<ul style="list-style-type: none"> 9 日独伊三国同盟成立 10 第5回国勢調査施行名古屋

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1941	昭和 16	10 第5回国勢調査施行鳴海町14,815人・大高町7,075人・有松町2,747人 － 鳴海俳句会「土筆会」句誌『土筆』創刊	市：132万8,084人 11 米穀配給通帳制度の実施
		4 鳴海・大高・有松、各尋常小学校が国民学校と名称変更 12 第二次世界大戦で絞業者の転廃業が多くなる － 鳴海町笠寺警察署の管轄下となり警部補派出所設置される	3 国民学校令発布 4 生活必需物品統制令公布 12 太平洋戦争おこる
1942	昭和 17	4 平手分教場後援会設立 11 名鉄左京山駅完成 － 国道1号線開通	1 名古屋総合運動場開設 4 米機名古屋を空襲 8 初めて市電・市バス共通通勤用定期券発行
		11 名鉄有松裏駅を有松駅と改称 12 大阪俘虜収容所第11分所有松裏に開設 － 鳴海町警部補派出所が巡查部長派出所となる	
1944	昭和 19	1 鳴海城跡の碑建つ 9 大阪第一師範学生学徒動員で住友金属鳴海工場で働き始める 12 東南海地震で大高の春江院山門倒れ鳴海と有松にも被害出る	1 名古屋と東京に疎開令を適用 2 北・栄・瑞穂の3区を増区 13区となる
		1 空襲で鳴海の山林に被害出る▽三河大地震で鳴海・大高・有松に被害 5 空襲で有松の役場が破壊し絞商工同業組合事務所に移る 12 有松の若者「伸興す楽団」結成 － 愛知郡鳴海町国民健康保険組合立診療所開設▽緊急開拓で大高緑地の県有林開放し入植者募集大高緑地就農組合設立	1 三河地震おこる 5 名古屋城空襲により焼失 8 広島・長崎に原爆投下太平洋戦争終結 11 栄区を廃し中区に併合12区となる
1945	昭和 20	1 空襲で鳴海の山林に被害出る▽三河大地震で鳴海・大高・有松に被害 5 空襲で有松の役場が破壊し絞商工同業組合事務所に移る 12 有松の若者「伸興す楽団」結成 － 愛知郡鳴海町国民健康保険組合立診療所開設▽緊急開拓で大高緑地の県有林開放し入植者募集大高緑地就農組合設立	1 三河地震おこる 5 名古屋城空襲により焼失 8 広島・長崎に原爆投下太平洋戦争終結 11 栄区を廃し中区に併合12区となる
1946	昭和 21	4 名古屋薬学専門学校が名古屋市立薬学専門学校となる 12 全国中等学校野球東海大会鳴海球場で再開	11 日本国憲法公布
1947	昭和 22	4 学制改革により鳴海・大高・有松、各中学校を創設 10 第6回国勢調査施行鳴海町20,778人・大高町9,278人・有松町3,502人 11 鳴海球場で東西花形選手の対抗試合開く － 天満社文嶺講が中心となり山車曳く祭り再開	3 教育基本法と学校教育法制定 4 第1回知事・市長選挙執行 8 従前の区役所出張所97カ所全廃 10 第6回国勢調査施行名古屋市：85万3,085人
		1 名鉄バス名薬線鳴海～名薬専門間開通 3 鳴海・大高に自治体警察署開庁有松は国家地方警察知多地区警察署の管轄となる 4 鳴海東部小学校平手分校より独立 8 鳴海・大高・有松の農業会解散し農業協同組合設立	1 新戸籍法施行 3 市警・市消防局発足 7 名古屋市市税条例公布 11 名古屋市教育委員会発足
1948	昭和 23	1 名鉄バス名薬線鳴海～名薬専門間開通 3 鳴海・大高に自治体警察署開庁有松は国家地方警察知多地区警察署の管轄となる 4 鳴海東部小学校平手分校より独立 8 鳴海・大高・有松の農業会解散し農業協同組合設立	1 新戸籍法施行 3 市警・市消防局発足 7 名古屋市市税条例公布 11 名古屋市教育委員会発足
1949	昭和 24	3 愛知県瀬戸保健所鳴海支所発足大高・有松は半田保健所管轄	1 中日球場竣工 3 「弘報なごや」創刊1万部

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き				
1950	昭和	25	4 名古屋市立薬学専門学校は名古屋薬科大学となる	発行 シャープ勧告発表			
			6 鳴海郵便局から電報・電話分離で鳴海電報電話局が作町に発足▽名古屋法務局有松出張所設置有松・大高・鳴海・豊明を管轄する	9 名古屋市で初めて宝くじ発売			
			7 鳴海町文化協会設立	9 湯川秀樹 ノーベル物理学賞受賞			
			10 鳴海郵便局新局舎京田33（現向田275）へ移転	12 お年玉つき年賀はがき発売			
			11 鳴海町民病院新築内科・外科・産婦人科（20床）開設				
			12 有松町公民館設置				
			1 大高町公民館設置	1 千円札発行			
			2 有松町商工会設立	3 名古屋市の人口100万人突破			
			4 名古屋薬科大学が名古屋市立大学薬学部となる	4 市の花を「ユリ」と決定▽公職選挙法制定			
			8 鳴海電報電話局向田へ移転	6 朝鮮戦争おこる			
			10 第7回国勢調査施行鳴海町22,055人・大高町9,848人・有松町3,589人▽普通公衆電話第一号を鳴海駅前ロータリーに設置	7 市内小学校で完全給食開始			
			12 鳴海製陶株式会社創立▽鳴海市場（名鉄鳴海駅南）開設	10 第7回国勢調査施行名古屋市：103万635人			
1951	昭和	26	1 中京競馬場鳴海に設置を決定する	4 五百円札発行			
			2 大高町役場庁舎を江明へ新築移転する	9 名古屋港管理組合設立			
			3 鳴海町制65周年記念式開催	9 サンフランシスコ平和条約調印			
			6 名古屋市立大学薬学部が鳴海町字黒石から瑞穂区へ移転	10 市バスワンマンカー走る			
			7 鳴海・大高・有松に農業委員会設置	11 蓬左文庫開館			
			10 大高町自治体警察が廃止され国家地方警察署の管轄となる				
			1952	昭和	27	1 有松絞商工協同組合設立	2 県警白バイ隊発足
						6 鳴海耕地整理組合解散	8 住民登録法施行
						10 有松町制60周年記念式典開催	8 日本電信電話公社発足
						12 大高絞協同組合設立	8 市立名古屋図書館を鶴舞図書館と改称
- 大高町警部補派出所設置▽鳴海町民病院20床増床で小児科・眼科・皮膚泌尿器科・理学診療科新設							
1953	昭和	28	4 平子小学校独立開校	10 町村合併促進法施行			
			7 名鉄中京競馬場前駅開設▽台風でガス本館損傷鳴海・大高町のガス供給が20日間停止				
			- 鳴海・大高・有松の名古屋市への合併問題起きる				
1954	昭和	29	1 愛知県瀬戸保健所鳴海支所が愛知県鳴海保健所に昇格	3 NHKテレビ放送開始			
			3 愛知県鳴海保健所庁舎完成	6 名古屋テレビ塔完成（高さ180m）			
			7 鳴海町自治体警察署の廃止により愛知警察署鳴海警部補派出所の管轄となり大高	8 地下鉄名古屋～栄町間で建設工事起工			

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き	
1955	昭和	30	町・有松町は横須賀警察署大高町警部補派出所管轄となる	9 自衛隊発足
			9 陸上自衛隊鳴海小学校校庭整地	10 中日ドラゴンズ初優勝▽愛知県大都市周辺市町村整備促進条例を公布施行
			10 有松町議会名古屋市への合併を議決	
			11 鳴海町議会名古屋市への合併を議決するも流血事件おこる	
			3 愛知県議会鳴海・有松両町の名古屋市への合併を否決	4 天白村、猪高村を市域に編入
			5 鳴海絞商工協同組合設立	7 名古屋市警察を愛知県警察に統合
			9 鳴海・有松両町を名古屋市に編入することについての内閣総理大臣の裁定「編入はならず」と出る	10 南陽町・富田町・山田村・楠村を市域に編入それぞれに支所を設置▽第1回名古屋まつり開催▽第8回国勢調査施行名古屋市：133万6,780人
			10 第8回国勢調査施行鳴海町24,577人・大高町9,914人・有松町3,850人 この頃 江戸時代からの鳴海宿旅籠屋「輪違屋」が廃業	11 電話による時報サービス開始
			9 鳴海小学校講堂で開く鳴海町役場臨時庁舎が出火で全焼し書類ほとんどが燃える	12 国連総会、日本の加盟を承認
			1956	昭和
12 交通局、地下鉄マークを決定				
1957	昭和	32	3 名古屋駅前地下街誕生	
			11 平和公園墓地移転完了▽地下鉄名古屋～栄町間開通	
1958	昭和	33	11 瑞泉寺総門県文化財に指定	
			－ 清水山古窯跡群有松中学校発掘調査	
			3 住宅公団の鳴海団地起工	10 名古屋駅前広場に「青年像」設置
			11 愛知県地方計画協議会において名古屋市域として鳴海町・有松町・大高町は合併すべきであるという結論に達する	12 一万円札発行▽東京タワー（高さ333m）完成
1959	昭和	34	12 鳴海町合併に関する住民投票の条例制定 投票の結果反対者側の申立の3割より19票反対が多く合併見送る	
			3 鳴海球場を名鉄自動車学校に改築開校	1 尺貫法を廃止メートル法実施
			4 大高町警部補派出所を廃し四駐在所（鶴田・田中・砦前・新町）を設置▽大高公民館が門田に新築移転	3 名古屋市とロサンゼルス市の姉妹都市提携成立
			6 東丘小学校開校	9 伊勢湾台風襲来
			7 名古屋市立大学薬学部跡にごみ埋立場開設（昭和42年3月31日終了）	10 名古屋開府350年・市制施行70周年記念再建名古屋城完成
			9 伊勢湾台風で大高死者14人・負傷者155人・流失家屋16戸・全壊103戸など鳴海・有松に大きな被害出る	
			2 大都市制度促進実行常任委員会が合併についての意向打診のため鳴海・大高・有松を訪問	1 日米新安全保障条約調印
1960	昭和	35	3 県道常滑線の改修工事竣工▽大塚古墳発掘調査で人骨・金環・鉄鏃・須恵器など出土	4 名古屋電話番号案内局開局
			9 鳴子団地起工	6 地下鉄栄町～池下間開通
			10 第9回国勢調査施行鳴海町31,519人・大高町10,297人・有松町4,544人	10 第9回国勢調査施行名古屋市：159万1,935人

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1961	昭和 36	<ul style="list-style-type: none"> - 鳴海にB S映画劇場開館 8 古鳴海公会堂完成 9 愛知用水完成 10 鳴海商工会設立 11 国道1号(京田)天白川にかかる大慶橋から東へ440メートルにわたり1車線3m広げる 12 名古屋市議会大都市制度促進委員会鳴海・有松・大高・上野・横須賀の5町を合併すべきと愛知郡・知多郡選出の県議と懇談会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 2 名古屋市工業用水道給水開始 ソ連が人類で初めて有人の 4 人工衛星船の打ち上げに成功 9 NHK名古屋教育テレビ放送開始
1962	昭和 37	<ul style="list-style-type: none"> - 善照寺砦跡の松枯れ伐採し棗制作 4 鳴子小学校開校▽大高町上野浄水場から給水開始 5 鳴海町給水始まる▽大高駅舎改築竣工 6 有松町給水始まる▽鳴子派出所開所 7 名鉄バス鳴海駅～鳴子団地間運転開始 9 市長代理として長尾助役鳴海町を訪れ合併を正式に申し入れる▽有松町名古屋市との今回の合併を見送ることを決定 10 鳴海町議会名古屋市への合併を決議▽名古屋市が守山市及び鳴海町との合併を議決▽大高町が鳴海町との名古屋市への同時合併を見送ることを決定 11 守山市・鳴海町名古屋市への合併調印▽鳴子団地竣工 	<ul style="list-style-type: none"> 2 名古屋市将来計画基本要綱公表 4 名古屋テレビ放送開始 5 35ミリ市政ニュースの映画館上映開始 10 新住居表示実施のため名古屋市町名町界審議会設置 11 白川公園に市科学館開館
1963	昭和 38	<ul style="list-style-type: none"> 3 鳴海町水道ポンプ場(作の山)竣工▽鳴海町水道工事完成 4 鳴海町名古屋市に合併緑区誕生▽初代緑区長に松永伊三郎就任▽鳴海町立病院名古屋市立緑市民病院と改称▽名古屋市南保健所緑支所発足▽緑消防署区役所内に開署▽鳴海町消防団名古屋市に編入▽水道局南業務所緑分所設置▽緑土木出張所開設▽込高排水場完成▽鳴海電報電話局新局舎で業務開始▽鳴海郵便局緑郵便局と局名変更▽緑区体育協会設立 7 ベルリンオリンピック金メダリスト兵藤秀子さん招き鳴海東部小学校でプール開き 10 鳴海電報電話局を愛知緑電報電話局に改称▽鳴海・大高・有松の電話を統して自動改式を実施▽鳴子下水処理場第1次整備完了 11 緑区に宅地造成等規制法が適用される 12 長尾助役が大高・有松両町を訪問し39年度中の合併を申し入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 2 守山市を合併13番目の区として守山区誕生 2 名四国道名古屋～四日市間開通 4 地下鉄池下～東山公園間開通 4 中部善意銀行発足 4 市議会・県議会選挙 5 愛知県産業貿易館開館 8 天白自動車運輸事務所新設 11 ケネディ大統領暗殺される
1964	昭和 39	<ul style="list-style-type: none"> 3 町名変更鳴子町1～5丁目 4 水道局南業務所緑分所緑業務所に昇格 	<ul style="list-style-type: none"> 5 市内に公害パトロールカー登場

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1965	昭和 40	5 大高町議会「住民投票行わず12月1日を合併の目標とする」申し合わせ▽有松町議会名古屋市への合併に対し全員賛成の意思を決定	6 市内に道路パトロールカー登場
		6 大高町議会住民投票にかわる世論調査を行うことを決定	9 名古屋港高潮防波堤完成
		7 大高町名古屋市への合併の世論調査実施▽合併賛成の票が3分の2以上あるので大高町議会は12月1日を目標に合併を進める旨申し合わせる	10 愛知県体育館開館▽東海道新幹線開業▽東京オリンピック開催
		9 有松町議会・大高町議会名古屋市への合併を議決	11 守山消防署に救急隊新設
		10 鳴海警部派出所開所▽服部孫兵衛邸愛知県文化財に指定▽市バス神宮東門～鳴子住宅系統を新設	
		11 緑消防署に救急隊新設	
		12 有松・大高両町を緑区に編入▽緑区役所有松・大高支所開庁▽南保健所緑2支所緑保健所に昇格▽緑区愛知警察署の管轄に入る	
		2 市バス名古屋港～左京山系統を新設▽住宅公団の鳴子団地2,107戸が完成	1 市バス料金改定一区20円
		3 大高町『大高町誌』刊	2 名古屋市老人クラブ連絡協議会発足
		4 鳴海中学校分校（鳴子台中）開校	3 犬山市に明治村開設
6 緑消防署庁舎完成	4 市農業センター開設▽愛知県自動車運転免許試験場設置		
7 中部電力（株）総合技術研究所大高町に移転業務開始	6 名神高速道路が全線開通		
9 有松・大高の一部に宅地造成等規制法適用	9 全国初の全地下式名城下水処理場完成		
10 第10回国勢調査施行緑区7万3,117人	10 地下鉄市役所～栄町間開通▽朝永振一郎 ノーベル物理学賞受賞▽第10回国勢調査施行名古屋市：193万5,430人		
1966	昭和 41	1 市バス神宮東門～大高町文久山系統を新設▽市バス名古屋港～有松町口無地へ系統を延長	6 名古屋市が「家庭の日」（毎月第3日曜日）を設定
		3 市バス鳴子住宅～神宮東門系統がワンマン運転となる	9 市役所西庁舎完成▽吹上ホール完成
		4 農業共済事業（有松・大高地区）緑区農業共済組合に移管▽鳴子台中学校開校	
		6 緑消防署大高出張所下塩田に完成▽汐田ポンプ場運転開始	
		7 緑区有松・大高地区農業委員会廃止緑区農業委員会へ統合	
		8 野菜指定産地「名古屋緑」として国の指定を受ける	

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き					
1967	昭和	42	11 緑区有松・大高合併地区行政協議会廃止 - 桶狭間古戦場調査委員会『桶狭間古戦場調査報告書』市教委に提出	3 地下鉄、東山公園～星ヶ丘間、金山～栄町間開通 4 市議会・県議会議員選挙 6 名鉄バスターミナル完成 8 公害対策基本法施行 11 住民基本台帳法施行				
			3 緑警察署有松派出所完成▽名薬専跡のごみ埋め立て場の埋め立て終わる▽東海道本線大高～笠寺間連続立体化完了					
			4 鳴海小学校分校（緑小）開校					
			8 愛知県絞工業組合設立▽鳴子団地人質強盗事件けん銃発射し制圧逮捕					
			9 緑市民病院改築工事着工▽国鉄大日本紡績大高工場専用線車扱い廃止					
			10 緑土木出張所（46年8月事務所に改称）が旧鳴海町役場内に開所					
			11 若田配水場竣工					
			12 鳴海清掃工場建設工事着工▽知多郡上野町との境界変更					
			1968		昭和	43	3 汐田ポンプ所排水開始	4 久屋広場完工 6 名古屋市区政協力委員制度発足▽小笠原諸島本土復帰 7 粗大ゴミ収集開始▽郵便番号制度発足 8 飛騨川バス転落事故おこる 12 東京都府中市で3億円強奪事件おこる▽川端康成ノーベル文学賞受賞
							4 緑小学校開校	
							7 緑プール開く	
							10 町名変更作の山町、鹿山一・二・三丁目	
12 緑区木工業・鉄工業各防火研究会発足 - 丸根砦跡で桶狭間の戦い慰霊祭始まる								
1969	昭和	44	1 名古屋法務局有松出張所が名古屋法務局鳴海出張所と名称変更庁舎新築	2 名古屋市の人口200万人突破 4 地下鉄星ヶ丘～藤ヶ丘（平成16年に藤が丘に改称）間・名古屋～中村公園間開通 5 東名高速道路が全線開通 7 アメリカが宇宙船アポロ11号を打ち上げ人類初の月面着陸に成功 8 市体育館開館 11 栄地下街（サカエチカ）完成				
			2 鳴海電報電話局が名古屋緑電報電話局と改称し名古屋市内扱いとなる					
			3 緑市民病院改築完成168床となる					
			4 鳴海小学校分校（片平小）と緑高等学校開校					
			5 鳴海町農協と有松町農協が合併し緑農業協同組合が発足					
			7 水道局緑業務所が鳴海町辻に移転完成					
			10 市バス新瑞橋～緑高校系統と鳴海町最中～神宮東門系統新設					
			12 山崎東部下水処理場（鳴海下水処理場）完成簡易処理開始					
			1970		昭和	45	4 片平小学校開校▽清掃局（49年8月環境事業局に改称）鳴海工場完成	3 大阪で、日本万国博覧会開幕 4 市学童交通指導員制度発足 6 熱田区に最初の青年の家完成 10 第11回国勢調査施行名古屋市：203万6,053人 12 南大津通りになごや日曜遊歩道開設
							5 緑保健所新庁舎字城に完成	
							6 平手電話交換局完成で緑区すべてが緑電報電話局管内となる	
							7 緑市民病院耳鼻咽喉科新設▽集中豪雨で緑区他3区に災害救助法適用（死者2負傷者2全壊家屋2半壊家屋6床上浸水530）などの被害出る	

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1971	昭和 46	9 大高四駐在所の統廃合で大高交番新設 10 第11回国勢調査施行緑区 9万4,218人 3 有松公民館改築工事完成（橋東南48） 4 鳴海下水処理場高級処理開始 6 六条ポンプ所排水開始 8 台風23号により緑区に災害救助法適用（全壊家屋3半壊家屋6床上浸水575）などの被害出る 9 緑清掃事務所庁舎が鳴海工場内に完成 10 戸笠小学校開校 - 三王山の「千鳥塚」句碑倒れ緑区役所に一時保管される	3 地下鉄金山～名古屋港間開通 4 市議会・県議会議員選挙 10 老人（75歳以上）医療費無料化実施 12 地下鉄市役所～大曾根間開通▽ごみ焼却場猪子石工場竣工
1972	昭和 47	2 緑区と愛知郡東郷町・豊明町との境界変更 3 鳴海配水場竣工 6 鳴海温水プール開場 8 緑図書館開館 9 扇川改修工事着手 10 名四国道全線開通	2 札幌冬季オリンピック開催 4 老人医療費助成を70歳以上に拡大 5 沖縄本土復帰 8 市の木を公募により、「クスノキ」に決定 10 市民会館開館▽人生記念植樹事業開始
1973	昭和 48	1 緑区の下水道整備始まる 2 有松天満社の布袋車・唐子車・神功皇后車山車名古屋市文化財に指定▽有松まちづくりの会発足 4 太子小学校・東陵中学校開校 5 扇川改修一部完成 10 鳴子下水処理場廃止▽町名変更潮見が丘一・二・三丁目、久方二・三丁目▽緑郵便局六田に移転 11 大高郵便局の集配を緑郵便局が受け持つ	1 0歳児の乳幼児医療費助成制度実施 4 乳幼児医療費助成制度を1歳児に拡大▽名古屋フィルハーモニー交響楽団設立 5 市民御岳休暇村開設 9 敬老特別乗車券の交付開始 10 心身障害者医療費助成制度実施 11 石油ショックおこる▽金城ふ頭に国際展示場開館 12 江崎玲於奈 ノーベル物理学賞受賞
1974	昭和 49	1 緑区役所新庁舎開庁（敷地面積：9,111㎡・延床面積：5,720㎡）▽大高・有松支所廃止▽緑水道業務所移転開庁▽市バス大高駅前～鳴子住宅系統を新設 2 区制10周年緑区の歌と「み」デザインのシンボルマーク決まる 3 国鉄大高駅高架化工事に伴い仮駅舎に移転 4 旭出小学校・浦里小学校・黒石小学校開校▽町名変更桃山一・二丁目・梅里一・二丁目 6 鶴田ポンプ所運転開始 8 愛知県緑警察署庁舎完工（現在地）業務開始で鳴海警部派出所は緑警察署鳴海派出所となる▽野並・平子・鳴子でバスレーン実施	3 地下鉄金山～新瑞橋間開通▽市電廃止 7 ごみ分別収集実施▽老人福祉電話設置 9 敬老手帳の交付開始 10 中日ドラゴンズ20年ぶりの優勝 12 佐藤栄作 ノーベル平和賞受賞

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き		
1975	昭和 50	9 鳴海処理場雨水ポンプ所完成	1 豊明市地下鉄誘致期成同盟会会長・豊明市長らが、名古屋市へ陳情 2 名東区・天白区を設置し16区となる▽名古屋バスターミナル営業開始 3 中区松ヶ枝町に勤労婦人センター新設 4 千種区振甫町に初の社会教育センター開設▽市議会・県議会議員選挙 7 沖縄海洋博覧会開催 10 第12回国勢調査施行名古屋市：207万9,740人 3 市職員の名札着用実施 4 北区金城町に名古屋休日急病歯科医療センター開設 11 地下鉄自動改札実施		
		1 緑市民病院整形外科新設▽鳴海東部小学校分校（神の倉小）開校			
		3 緑消防署有松出張所完工▽天白橋改築完工			
		4 神の倉小学校独立・長根台小学校・千鳥丘中学校開校▽ユニチカ大高工場閉鎖			
		5 緑市民病院心臓病医療チーム発足総合病院として承認される▽緑福祉会館・児童館開館			
		7 愛宕霊園完成▽鳴子台中学校分校（神沢中）開校			
		9 有松小学校分校（桶狭間小）開校			
		10 第12回国勢調査施行緑区11万9,126人			
		11 緑警察署鳴海派出所改築			
		1976		昭和 51	1 町名変更長根町池上台一・二・三丁目、鹿山一・二・三丁目・万場山
					2 町名変更神の倉一・二・三・四丁目
3 第1回区民植木と花の市開催▽諸ノ木処分場埋立開始（昭和53年3月29日終了）▽市営住宅桶狭間荘完成▽若田配水場廃止					
4 桶狭間小学校・神沢中学校・県立鳴海高等学校開校					
5 市バス野並車庫～白土系統新設▽町名変更有松町大字桶狭間字セト山					
6 鳴海自転車駐車場開設					
7 町名変更六田一・二丁目・曾根一・二丁目▽特別養護老人ホームの「黒石荘」開所					
10 市バス神宮東門～大高町大根山系統を延長▽鳴子局開局市内局番変更					
12 社会福祉法人ゆたか福祉会なるみ作業所開所					
1977	昭和 52		1 町名変更ほら貝一・二・三丁目		
			3 西知多産業道路国道1号まで開通▽町名変更相川三丁目・篠の風二丁目		
			4 緑市民病院神経科新設▽緑区全地域「速達」配達取り扱いとなる		
		5 緑社会教育センター開所▽桶狭間古戦場保存会発足			
		7 「千鳥塚」「芭蕉供養塔」を名古屋市文化財に指定			
		11 大高川改修工事着工▽町名変更曾根一・二丁目			
		12 第1回緑区農産物品評会開催			
		1978	昭和 53	4 みどりの農園螺貝に開園▽鳴海中学校分校（扇台中）開校▽大高駅駅舎完成し移転▽名鉄有松駅踏切に専用歩道設置	
				1 ロッキード事件裁判始まる	
				3 地下鉄伏見～八事間開通▽東区布池町に市医師会休日急病診療所開設	
				5 農業土木委員制度発足▽市国展示場で中華人民共和国展覧会開催	
		10 老人医療費助成制度を68歳に拡大▽市博物館開館			
11 ごみ焼却場南陽工場竣工					
12 名古屋市基本構想議決					
2 名古屋市とメキシコシティの姉妹都市提携					
6 冷房バス運転開始					

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1979	昭和 54	9 天白区との区境変更▽町名変更古鳴海一丁目・鳴子町2丁目	7 中区大井町に、市婦人会館開館
		10 町名変更青山一・二・三丁目▽名鉄左京山駅改築営業開始▽鳴海配水場配水池増築工事完成▽鳴海商工会「扇川まつり」開く	8 日中平和友好条約調印
		- 三王山遺跡で溝状遺構発見	10 地下鉄八事～赤池間が開通▽市バス料金が均一110円になる
		1 鳴海絞商工協同組合『鳴海絞』刊	12 名古屋市と南京市（中国）の友好都市提携
		3 緑市民病院病棟修繕工事施行▽町名変更森の里一・二丁目▽東海道本線の大高地区連続立体交差完成	4 市議会・県議会議員選挙
		4 相原小学校・桃山小学校・扇台中学校開校	7 ポートプレイランド（金城ふ頭）開館▽機械車による粗大ごみ収集実施
		5 地域スポーツセンター扇台中学校に開所▽町名変更太子一・二・三丁目▽大高・大高第2・大高第3自転車駐車場開設	10 市制施行90周年記念式典▽南区に見晴台考古資料館開館▽救急医療情報システム対象地域熱田・南・守山・名東・天白にも拡大
		7 交通局自動車工場森の里へ移転開設▽名古屋都市高速道路2号線、円上～大高間10.9キロメートル開通	
		10 緑区が救急医療情報システム対象地域となる	
		11 鳴海第2自転車駐車場開設	
		1980	昭和 55
3 鳴海配水塔築造工事着手	2 市営バス創業50周年		
4 緑消防署戸笠出張所完工	9 名古屋市とシドニー市（オーストラリア）の友好都市提携		
5 市民教養ルーム相原小学校に開所	10 第13回国勢調査施行名古屋市：208万7,902人		
6 天白区との区境変更▽町名変更相川一・二・三丁目			
8 市営住宅森の里荘完成			
10 第13回国勢調査施行緑区14万5,872人▽大高中学校町屋川から森の里へ移転			
11 地域スポーツセンター大高中学校に開所▽緑地保全地区米塚・火上山・鷺津・桶狭間指定			
1 町名変更松が根台	2 し尿の定日収集実施		
3 鳴海姥子山土▽神沢川改修完了▽汐田と大高ポンプ場に遠方監視制御装置設地	4 天白区に農業指導館開館		
1981	昭和 56		
		5 町名変更鳴丘一・二丁目、神沢一・二・三丁目、篠の風二・三丁目	6 三重県桑名郡長島町に休養温泉ホーム松ヶ島開所
		7 市バス諸ノ木～大高駅前系統を新設	7 熱田区に視聴覚教育センター開館
		8 雨水排水用六条ポンプ場完成	9 戦災復興土地区画整理事業の換地処分が完了
		9 名古屋市宿泊青年の家建設工事着工	11 地下鉄鶴舞線、浄心～伏見間開通
		11 大高中継ポンプ所建設に着手▽大高第4自転車駐車場開設	

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
1982	昭和 57	1 四郎曾池改修完了 3 丸根砦・熊野社・成海神社・諏訪社を緑地保全地区に指定▽基幹バス開通で高速2号廃止▽雨水貯溜事業の螺貝池改修完了 4 有松に自転車駐車場開設▽鳴海西部ポンプ場廃止 5 黒沢台五丁目と乗鞍一・二丁目町名変更▽鳴子台地域スポーツセンターが開所 6 蝮池に市営の釣り場開放▽緑親会作業所開所▽浦里一・二・三・四・五丁目町名変更▽不審火で西行庵焼失 8 台風10号大雨で鳴海町前之輪の急傾斜地崩壊危険区域でがけ崩れ 9 町名変更黒沢台一・二・三丁目町▽市バス緑黒石～徳重系統を延長 12 星の宮人道橋(浦里四丁目～南区星宮町)完成	12 福井謙一 ノーベル化学賞受賞 1 港区役所新庁舎開庁▽楠地区会館開館 3 基幹バス第1号線(栄～星崎)運行開始 6 中・瑞穂社会教育センター開館▽瑞穂陸上競技場(全面改築)▽露橋スポーツセンター開設 7 吹上ホール本館開館 11 北区総合庁舎(区役所・保健所・総合福祉会館)開庁
1983	昭和 58	1 区内で初めての車いす用公衆電話ボックスを区役所構内に設置 2 緑警察署東陵交番開所 3 鳴海小学校の縄文住居跡に「矢切の丘」完成 4 緑警察署桃山交番開所 6 鳴海配水塔完成▽宿泊青年の家(大高町蝮池)開所 7 名鉄鳴海駅の新駅舎完成 10 区制20周年記念シンボルタワー除幕▽記念誌『緑区誌』刊▽県道名古屋松本線の矢切～古鳴海まで区内初の防犯モデル道路に指定	4 久屋大通公園「エンゼルブリッジ」開通 7 自転車放置禁止区域(名駅・栄・池下・藤ヶ丘)設定 8 全国高校総体を名古屋市で開催 11 市芸術創造センター開館
1984	昭和 59	2 桃山郵便局開局 3 黒石郵便局開局▽町並み保存地区第1号に有松を指定▽有松・鳴海絞会館旧有松町役場跡地に開館 9 「緑区の伝説と民話」刊 11 鳴海東部コミュニティセンター開館 12 緑警察署大高交番(移転改築)開所	9 名古屋城博で、金シャチを特別展示 11 東山動物園で、コアラの一般公開開始
1985	昭和 60	3 鳴子中央公園に壁泉完成 4 滝ノ水中学校開校▽相原町の唐子車山車市指定文化財に指定 5 緑社会教育センターの分室として上汐田教育集会所開所 12 桶狭間小学校が開校10周年記念『桶狭間』刊	4 基幹バス第2号線(栄～引山)運行開始 5 都市高速道路(東新町～高辻、鶴舞南分岐点～東別院)開通 9 動物愛護センター開館 10 東庁舎完成
1986	昭和 61	3 緑警察署有松派出所(改築)開所	2 市シルバー人材センター設立

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き	
1987	昭和	62	3 旧鳴海町・有松町・大高町の役場跡地に標柱建てる	5 高年大学鯉城学園開校
			4 大高南小学校開校	9 コアラの赤ちゃん誕生
			5 滝の水公園開園	10 都市高速道路白川～名古屋西インターチェンジ間開通
			10 交通局緑営業所開所	東名阪と直結▽公文書公開制度の実施
			11 皇太子殿下ご夫妻が有松・鳴海絞会館に行啓	
			1 服部幸平家住宅の倉を県指定文化財に指定	3 東山動植物園開園50周年記念事業（なごやHAPPYフェア）開催
			3 鳴海商工会館完成	7 市総合体育館（現日本ガイシアリーナ）完成
			6 岡忠雄家住宅を市指定文化財に指定	8 都市高速道路（新洲崎～名駅出口）開通
			7 大高西部汚水幹線工事で市初の陶製推進管による工法を採用	11 地下鉄開業30周年記念式典開催
			8 緑農業委員会発足▽平手郵便局開局	12 利根川進 ノーベル生理学医学賞受賞
1988	昭和	63	4 徳重小学校開校	3 東名阪自動車道（名古屋西～清州東）開通
			5 緑コミュニティセンター開館▽小坂古墳発掘調査で古墳でないと判明する	4 市美術館開館▽都市高速道路（白川～吹上、東別院～山王～新洲崎）開通
			6 有松山車会館開館▽みどりが丘公園「都市計画公園」分譲開始	10 自転車等放置の防止に関する条例施行
			7 水広下池を釣り池として開場	12 都市高速道路（楠～萩野）開通
			11 大清水ごみ埋め立て処分場利用開始	4 消費税が導入される税率3%
				5 白鳥センチュリープラザ完成
1989	平成	元	1 緑都市整備事務所開所	7 世界デザイン博覧会開幕▽金山総合駅完成
			4 市制百周年記念塔除幕▽大高南コミュニティセンター開館	9 地下鉄桜通線中村区役所～今池間開通
			7 名鉄バス深夜鳴海駅前～鳴子みどりヶ丘運行開始	10 市制施行100周年記念式典挙行▽市政資料館（旧名古屋高等裁判所）が開館
			10 市制100周年緑区記念事業（みどりシティフェスティバル）開催▽滝ノ水郵便局開局	11 富田工場・富田北プール・富田北地域センター開所
			12 区の木「カエデ」・区の花「ミヤコワスレ」に決まる	3 国際花と緑の博覧会開幕
				4 名古屋国際会議場開所▽国際留学生会館（旧港区役所跡地）開館
1990	平成	2	4 滝ノ水小学校と大清水小学校開校	7 住民基本台帳事務電算化
			6 新海池に30m吹き上がる大噴水完成▽長根台コミュニティセンター開館	
			7 住民基本台帳の事務が電算化となる▽東海道五十三次鳴海宿宵まつり始まる	
			9 集中豪雨で前之輪に崖崩れ起きる▽中ノ島菩薩遺跡発掘調査	
1991	平成	3	3 名古屋市公園緑地協会『緑区の名木』刊	1 中川区役所富田支所新築移転
			4 桃山コミュニティセンター開館▽区役所で部設置の機構改革	4 白鳥庭園開園
				8 中区役所・朝日生命共同ビ

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き				
1992	平成	4	5 緑消防署新庁舎滝の水に完成	ルオープン			
			9 台風18号大雨で扇川決壊床上浸水804棟 災害救助法適用	9 台風18号による集中豪雨 (災害救助法適用)			
			- 滝の水公園に名古屋薬学専門学校跡碑建 つ	10 第2・第4土曜日を休みと する土曜閉庁実施			
			1 左京山郵便局局舎落成	3 低公害バス運行開始			
			2 滝の水緑地散歩道整備一般開放▽大高緑 地で第1回学区対抗駅伝	4 市総合体育館にレインボー プール(現日本ガイシア リーナ)、弓道場がオー プン▽公害対策局を環境保全 局に改称			
			4 有松都市整備事務所開所▽左京山中学校 開校	7 放置自転車の販売を開始			
			5 緑消防署鳴海出張所完成	8 救急救命士が業務を開始			
			6 緑保健所が放った幼虫成長し桶狭間神明 社一帯で蛍鑑賞会開く	10 名古屋港水族館開館			
			7 小塚家住宅市指定文化財に指定▽緑ス ポーツセンター開館▽八ツ松の鎌倉台 中学校用地で250kg爆弾見つかる	11 車いす用リフト付きバス運 行開始			
			9 扇川水位通報装置設置				
			11 第1回国際絞会議有松など会場に開く				
			1993	平成	5	4 鎌倉台中学校開校▽緑警察署徳重交番開 所▽市植樹祭上朝日出公園で開く▽市バ ス諸の木～地下鉄原系統新設	3 毎週土曜日を閉庁日とする ▽上下水道料金コンビニエ ンスストアで収納取扱い開始
5 鳴子小学校で緑区消防団連合観閲式	4 荒子川公園ガーデンプラザ 開館						
6 福祉風土まちづくり推進協議会設立総会 を開く	5 東山動植物園の星が丘門オ ープン						
8 緑社会教育センターで「親子で戦争体験 を語り継ぐ集い」開く	7 東山公園テニスセンターが オープン						
11 区制施行30周年記念式典開催	8 昭和区新庁舎(区役所・保 健所・なごやかヘルプ研修 センター)オープン						
12 平子コミュニティセンター開館▽石神遺 跡発掘調査で弥生以降の複合遺跡と判明	10 東山動物園に世界のメダカ 館開館						
1994	平成	6				3 滝ノ水コミュニティセンター開館	12 大江健三郎 ノーベル文学 賞受賞
						4 ごみ処理施設「緑環境事業所」建て替え が完成	
						11 名鉄バス鳴海駅前～敷田系統新設と市バ ス野並～太子系統新設	
1995	平成	7				12 名鉄鳴海工場で列車事故想定救急訓練実 施	
						1 誓願寺で千鳥塚の市博物館への移設反対 集会開く	1 阪神淡路大震災おこる
						2 有松まちづくりの会と有松の町並が市都 市景観賞の特別賞を受賞	3 地下鉄サリン事件おこる
			4 鳴子コミュニティセンター開館				
			5 鳴海コミュニティセンター開館▽鳴海配 水場改良工事実施				
			6 道路拡張工事に伴い鳴海城跡の発掘調査 実施				

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き	
1996	平成	8	8 竹田家住宅市指定文化財に指定	
			12 まちづくり考える「緑区区民広場」開く	
1997	平成	9	5 太子と旭出にコミュニティセンター開館 ▽理容組合緑支部呼びかけで扇川の清掃活動始まる	4 名古屋能楽堂開館
			11 緑保健所が相原郷に移転 － 鳴海「猩々の会」結成	
			4 緑社会教育センターが緑生涯学習センターに名称変更	
1998	平成	10	9 神ノ倉（徳重北部古窯跡）発掘調査	2 長野冬季オリンピック開催 5 ランの館開館
			10 大高北小学校に隣接する児童公園で埋められていた奉安殿見つかる	
			3 市教育委員会『大高南地区遺跡発掘調査概要報告書』刊	
1999	平成	11	4 常安小学校開校	
			6 黒石と神の倉にコミュニティセンター開館	
			4 みどりの農園利用者募集	
2000	平成	12	5 浦里コミュニティセンター開館	2 白川英樹 ノーベル化学賞受賞
			6 鳴海コミュニティセンター開館	
			11 鳴海宿場まつり始まる	
2001	平成	13	4 有松公民館と大高公民館が緑生涯学習センターの有松分館と大高分館となる	12 野依良治 ノーベル化学賞受賞
			6 戸笠と常安にコミュニティセンター開館	
			9 豪雨で鳴海・浦里・緑の3学区約9,000世帯23,000人に避難勧告が出され災害救助法適用	
2002	平成	14	10 集中豪雨の被害大きく緑区民まつり中止	10 栄公園オアシス21オープン 12 小柴昌俊 ノーベル物理学賞受賞、田中耕一 ノーベル化学賞受賞
			5 相原コミュニティセンター開館▽みどりが丘公園会館開設▽新・桶狭間古戦場まつり始まる	
			6 緑文化小劇場開館	
2003	平成	15	10 大高緑地デイキャンプ場オープン	
			2 有松絞商工協同組合が創立50周年記念で頼山陽の石碑建てる	
			4 大清水コミュニティセンター開館	
2004	平成	16	5 桶狭間古戦場万灯会始まる	
			11 緑区ルネッサンスフォーラムスタート	
			1 有松「あないびとの会」発足	
			2 鳴海地区土地区画整理組合設立▽南区に移築されていた鳴海宿脇本陣車寄せ取り壊しで消滅▽名鉄鳴海駅構内で大規模列車事故想定訓練	
			4 小坂小学校開校▽滝の水交番開所	
			11 大高に移築されていた鳴海陣屋の建物が取り壊しで消滅▽旭出小学校開校30周年記念『旭出』刊	
			4 徳重コミュニティセンター開館▽神の倉中学校開校	

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
2005	平成 17	5 神の倉中学校体育施設を地域に開放▽相原小学校で市長の出前授業	2 中部国際空港(セントレア)開港 3 愛知万博(愛・地球博)開幕
		8 緑区の人口名古屋市の区で最多となる	
		11 有松桶狭間観光振興協議会設立	
2006	平成 18	4 小坂コミュニティセンター会館▽桶狭間交番開所▽名古屋市長選挙と初の市議会議員緑区選挙区補欠選挙実施	8 冥王星が惑星から降格
		7 春江院国登録有形文化財に指定	
		8 市民スポーツ祭「区対抗の部」で緑区優勝	
2007	平成 19	4 有松村藍流(あいる)まつりはじまる	
		6 マンション建設のため鳴海城跡の発掘調査	
		11 東丘コミュニティセンター開館▽名鉄左京山～天白川間立体化工事完成し運用開始	
2008	平成 20	2 名鉄自動車学校に鳴海球場開設80周年記念プレート設置	12 小林誠・益川敏英 ノーベル物理学賞受賞 下村脩 ノーベル化学賞受賞
		7 萬乗醸造国登録有形文化財に指定	
		10 レジ袋有料化促進モデル事業(政令指定都市初26店舗)実施▽緑生涯学習センター大高分館閉館▽鳴海まつり山車48年ぶり国道1号を横断して八幡宮へ巡行	
2009	平成 21	12 緑生涯学習センター有松分館閉館▽有松コミュニティセンター開館	
		2 有松開村400年記念で式典などを開く	
		3 中濱家住宅国登録有形文化財に指定	
2010	平成 22	4 熊の前小学校開校▽県営ドッグラン大高緑地に完成	12 根岸英一・鈴木章 ノーベル化学賞受賞
		5 扇川グリーンマップ制作	
		8 ど真ん中まつりで鳴海商工会「猩々」チームが大賞を受賞	
		11 緑区制45周年記念「あなたの好きな緑区」募集	
		1 碑「おけはざま山今川義元本陣跡」建てられる	
		3 大高・大高北コミュニティセンター開館▽JR南大高駅開業	
		4 棚橋家住宅国登録有形文化財に指定	
		7 ごみ処理施設鳴海工場本格稼働	
		10 熱田神宮創祀千九百年記念遷座奉祝に鳴海と大高の猩々参加	
		11 鳴海宿高札場を復元し高札掲げる	
		3 有松まちなみ保存ファンド募金開始▽緑区が住宅地・商業地(公示地価)いずれも全国1位の上昇	
		4 ユメリア徳重(区役所・図書館・保健所・地区会館複合施設)完成	
		5 ユメリア徳重業務開始▽緑区観光推進協議会設立▽桶狭間の戦い450年迎え銅像「近世の曙」除幕式など記念行事開く	

西暦	年号	緑区の動き	名古屋市・一般社会の動き
2011	平成 23	10 名古屋開府400年祭「大山車まつり」に有松・鳴海の山車が参加	1 全国で「タイガーマスク」名乗り施設にランドセル贈る現象起きる 3 東日本大震災おこる 7 アナログ放送終了デジタル放送移行
		11 銅像「近世の曙」を名古屋市へ寄贈▽有松まちなみ保存ファンド募金目標額(660万円)達成 - 細根山オアシスの森散策路整備される	
		3 名古屋第二環状自動車道開通で鳴海と有松にインターチェンジ▽地下鉄桜通線延伸で相生山・神沢・徳重の三駅開業▽徳重駅前交番開所	
2012	平成 24	4 大高に市内初の幼保連携型施設開園▽相原郷の扇川でカミツキガメ捕獲	12 山中伸弥 ノーベル生理学医学賞受賞
		5 古戦場公園に大田錦城「桶狭間を過ぐ」漢詩碑建つ▽有松東海道無電柱化(有松郵便局～松野根橋)完成	
2013	平成 25	10 緑区マスコットキャラクター「みどりっち」誕生	
		5 緑区制50周年PRニュース創刊▽50周年寄付金にみどりっちバッジ・タオルマフラープレゼント 6 藍染川遊歩道完成 4 緑区制50周年迎える	

5 参考文献

書名	著者・編集・発行所	書名	著者・編集・発行所
緑区の史跡と文化財	名古屋市緑区役所	伊勢湾をめぐる船の文化	名古屋市博物館
緑区誌・区制二十年記念	名古屋市緑区役所	尾張の歴史	名古屋市博物館
緑区制三十周年記念誌	緑区区制施行30周年記念事業実行委員会	緑区の考古遺跡	名古屋市教育委員会
大高町誌	大高町	東海俳文学史稿	名古屋市教育委員会
有松町史	有松町	鳴海小作争議と雉本朗造博士	雉本博士銅像後援会
奈留美	鳴海町	尾張国地名考	愛知県海部郡教育会
有松志ほり	有松絞技術保存振興会	芭蕉さまと名古屋	名古屋市経済局
鳴海絞	鳴海絞商工協同組合	名古屋をめぐる街道	名古屋市経済局
新修名古屋市史	名古屋市	名古屋鉄道百年史	名古屋鉄道株式会社
名古屋の史跡と文化財	名古屋市教育委員会	東海の芭蕉	泰文堂
緑信用農協のあゆみ	緑信用農業協同組合	名古屋のやきもの	荒木集成館
瑞泉寺史	浅井大仙・川口高風 愛知県郷土資料刊行会	名古屋のやきもの	愛知県陶磁資料館
鳴海・創立百周年記念出版	名古屋市立鳴海小学校	民俗文化財調査報告書	名古屋市教育委員会
有松・創立百年記念誌	名古屋市立有松小学校	有松町並み調査報告	名古屋市教育委員会
創立二十年・東丘	名古屋市立東丘小学校	名古屋の石造物	名古屋市教育委員会
大高	名古屋市立大高小学校	ドンドン塚発掘調査の記録	名古屋市教育委員会
桶狭間・開校十周年記念	名古屋市立桶狭間小学校	愛知郡誌	愛知郡役所
創立百周年記念誌	名古屋市立鳴海東部小学校	知多郡誌	知多郡役所
わたしたちの鳴海東部	名古屋市立鳴海東部小学校	桶狭間古戦場調査報告	名古屋市教育委員会
黒石のあゆみ	名古屋市立黒石小学校	有松まつり	名古屋市教育委員会
緑区の名木	名古屋市公園緑地協会	地元の古老が語る桶狭間合戦始末記	梶野渡 桶狭間古戦場保存会
みどりの年報	名古屋市農政緑地局	大人形への祈り	名古屋市博物館
名古屋の野鳥	名古屋市農政緑地局	あゆち潟の古代	名古屋市博物館
尾張の古代寺院と瓦	名古屋市博物館	あゆち潟の考古学	名古屋市博物館
鳴海廃寺発掘調査概要報告書	名古屋市教育委員会	古墳はなぜつくられたのか	名古屋市博物館
愛知県史略年表	愛知県文化会館図書部	日本史辞典	角川書店
猿猴庵とその時代	名古屋市博物館	東海道分間絵図	藝林舎
名古屋の街道	名古屋市教育委員会	東海の俳諧史	泰文堂
東海俳文学史稿	名古屋市教育委員会	尾張名古屋の古代学	名古屋市博物館
よみがえる戦国	名古屋市博物館	尾張志	鈴木作次郎
名古屋の町並と建築	名古屋観光推進協議会	尾張名所図会	小田切春江・画 岡田文園と野口梅居・文

書名	著者・編集・発行所	書名	著者・編集・発行所
小治田之真清水	小田切春江・画 岡田文園・文	込高新田堤防発掘調査概要報告書	名古屋市教育委員会
百年むかしの名古屋	名古屋地下鉄振興株式会社	清水寺遺跡発掘調査概要報告書	名古屋市教育委員会
天保の村絵図緑区域解説版	山口輝雄	有松・鳴海絞	名古屋鉄道株式会社
市営交通70年のあゆみ	名古屋市交通局	名古屋祭	伊勢門水（水野宇右衛門） 村田書店
信長公記	太田牛一	なごやの民話	ふるさとを訪ね民話を読む会
市政概要	名古屋市	名古屋の伝説	名古屋市
国鉄名古屋駅百年史	日本国有鉄道名古屋駅	名古屋400年のあゆみ	名古屋市博物館
みどりの歴史を訪ねて	みどり小さな歴史資料館	名古屋の遺跡百話	名古屋市教育委員会
みどりの歴史を訪ねて（年表）	みどり小さな歴史資料館	旅と街道	名古屋市博物館
名古屋教育史写真集	名古屋市教育委員会	旅道中	天理ギャラリー
中部電力五十年史	中部電力株式会社	鳴海村誌解説版	山口輝雄
名古屋市下水道事業史	名古屋市下水道局	常用国語便覧	浜島書店
土木行政のあゆみ	名古屋市	文化財叢書	名古屋市教育委員会
芭蕉紀行集	志田延義・金子義夫 桜楓社	愛知の文学散歩	愛知県観光協会
愛知県警察史	愛知県警察本部	名古屋市の歴史	名古屋市医師会
徳重西部地区埋蔵文化財発掘調査報告	名古屋市教育委員会	浮世絵東海道	安城市歴史博物館
名古屋の消防	名古屋市消防局	尾張侵攻桶狭間の戦	静岡古城研究会
消防三十年のあゆみ	名古屋市消防局	選挙だより	名古屋市選挙管理委員会
伊勢湾台風	伊勢湾台風30年事業実行委員会	名古屋のおいたち	愛知県郷土資料刊行会
中京圏の地震災害	日本損害保険協会	原始の狩・漁・採集	名古屋市博物館
芭蕉全句集	乾裕幸・桜井武次郎・永野仁 桜楓社	伊勢湾台風の全容	名古屋市消防局
東海の縄文時代	名古屋市博物館	名古屋の火災記録集成	名古屋市消防局
愛知の文学	愛知県国語教育研究会高等学校部会	緑区のあゆみ	緑区ルネッサンスフォーラム
緑の電報電話100年のあゆみ	名古屋緑電報電話局	図説愛知県の歴史	河出書房新社
災害の記録	愛知県	近世なごやの裏話	名古屋市教育委員会
名古屋市の近世社寺建築	名古屋市教育委員会	目で見る教育100年のあゆみ	文部省 東京美術
		角田忠行翁小伝	熱田神宮宮庁
		有松町並み調査報告	名古屋市教育委員会

あ と が き

昭和38（1963）年に人口4万1501人だった緑区は、平成23（2011）年には23万人を超える大所帯となりました。大高には東海道線JR南大高駅が開業するなど、住みやすい街づくりが進んでいます。中でも鳴海東部の発展はめざましく、静かな山と田畑が広がるばかりでしたが、地下鉄桜通線が開通し、徳重・神沢・相生山の3駅ができ、自動車道（環状2号線）の鳴海ICもできるなど、今では近代的な家々が立ち並ぶ町並みとなり、緑区役所徳重支所、徳重図書館、徳重駅前交番なども開設されました。

平成25（2013）年4月1日。愛知郡鳴海町と知多郡有松町・大高町がひとつになってできた名古屋市緑区が50周年を迎えました。50年という節目を区民みんなで協力してお祝いしようとして、「緑区制50周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、さまざまなイベントや事業を展開しました。緑区誌の編さんも記念事業のひとつです。

緑区では20周年と30周年に記念誌が刊行され、『緑区の史跡と文化財』も出版していますが、誕生50年を迎えて、発展のいちじるしい緑区を伝え残すことになりました。

区誌編さん部会で議論し、読みやすさを基本に編集に取り組み、緑区の歴史から、区政、学区、学校などを紹介することにしました。また、さまざまな50周年の記念事業も収録記載しました。写真を多く用いて、「緑区制50周年を迎えて」「緑区あれこれ」「行政のあらまし」「学区・学校のあらまし」の4部構成に歴史年表を添え、これからの緑区のさらなる発展への記録となるような区誌に組み立てています。限られた紙面の関係から掲載できなかった歴史も多くあり、少しさびしい気持ちもありますが、これをスタートにして、素晴らしい郷土の歴史について、多くの人にさらなる研究を深めていただければと思っています。また、区政、学区への感心や取り組みがますます深まることを願っています。

多くの方々に気持ちよく読んでいただけるように努力したつもりですが、読みづらいところや、内容的にも不十分な点、正確を期していないところもあるかと思えます。ご高覧いただき、ご指導、ご教示を賜れば幸いに存じます。

編さんにご協力いただいた皆さまには心より厚くお礼申し上げます。

区誌編集責任者 淡河俊之